和白干潟を守る会

2002年度活動報告

2003.2.22　和白干潟を守る会事務局長　田中浩朗

活動方針１．環境教育プログラムを充実させ、多くの子どもたちに自然の大切さを伝えることを通して、自然保護の機運を高める。

１. 和白干潟自然観察会

６月に和白干潟自然観察会の案内状とパンフレット「環境教育シリーズ Ⅰ・Ⅱ」を福岡市内および周辺自治体の小学校・保育園と公民館・市民センターなど計３５０か所に送付した。

小中学校や保育園などから多数の申込みがあった。２００２年度（１月～１２月）中にお世話した観察会は次の通り。保育園２回７０名、小学校６回３８０名、中学校１回５６名、子どもエコクラブ１回５０名、公民館２回７３名、合計６２９名（回数・人数はすべて延べ）。その他に、大人のグループや海外からの訪問者など延べ１８６名の見学をお世話した。それらを合計すると２００２年度に延べ８１５名の観察会・見学をお世話したことになる。

他団体等から依頼を受けて行なった上記の観察会等の他に、守る会主催の観察会（第１回）「ウラギクの花を見よう」を１０月に実施した。参加者９名。

２. 第6期和白干潟自然観察指導員講習会

和白干潟での自然観察会の指導員養成・研修のため、８・９月に全２回の第６期自然観察指導員講習会を開催した。講師は、第１回が嶺井久勝氏（２５名参加）、第２回が大倉寿之氏（２８名参加）だった。３６名が受講し、皆勤で講習を受けられた方は１７名だった。

観察会指導のリーダーは、山本が９回、河上が５回、鵜飼が１回担当した。また、観察会の指導には１１名が協力した。

３. 第14回和白干潟まつり

１１月１７日（日）に毎年恒例の干潟まつり（第１４回）を開催した。主催は、グリーンコープ生協福岡・北九州（福岡東支部）と守る会で構成される「和白干潟まつり実行委員会」。参加者は約６００名だった。

４. クリーン作戦と自然観察（毎月第4土曜日）

毎月第４土曜日午後３時から５時まで、海の広場からアシ原付近を中心に清掃活動・自然観察・水質調査をそれぞれ１２回実施した。各回９～３１名参加、延べ２１３名。ゴミ袋は１０～５７個のほか、粗大ゴミが多くあった。

４月２７日（土）は干潟を守る日２００２と春のビーチクリーンアップに、６月２日（日）はラブアース・クリーンアップに、そして９月２８日（土）は国際ビーチクリーンアップに参加した。

活動方針２．和白干潟の大切さとその変わりつつある姿を、客観的なデータをもとに広く社会に訴えるため、和白干潟およびその周辺の生物の調査に力を入れる。

5. 調査

（1）以下の調査に協力した。

１月　　和白海域水鳥調査（日本野鳥の会福岡支部・IWRB 国際水禽湿地調査局）

１月～２月　ズグロカモメ調査（WWF ジャパン）・クロツラヘラサギ調査（Ecosystems Ltd.、香港）

１～２月、１２月　冬季シギ・チドリ調査（環境省・WWF ジャパン）

４月～５月　春季シギ・チドリ調査（鳥類保護連盟、環境省・WWF ジャパン）

９月　　ゴミ内容調査（国際ビーチクリーンアップ）

８月～９月　秋季シギ・チドリ調査（鳥類保護連盟、環境省・WWF ジャパン）

（2）毎月のクリーン作戦と自然観察の際に、和白干潟の水質調査を計１２回実施（前出）。

（3）和白干潟の底生動物や植物の観察を不定期に実施。

活動方針３．悪化しつつある和白干潟の環境を保全するため、和白干潟保全と人工島計画見直しを市民や関係機関に訴える。

6. 和白干潟通信

１・４・７・１０月に「和白干潟通信」を計４回（No. 61～64、各4300～4500部）発行した。毎号Ｂ５判８ページで和白干潟に関する情報を発信している。配布先は、会員、マスコミ・行政関係、和白干潟周辺の家庭。各号につき数回の編集会議を開いて作成した（編集委員は５名）。発送作業はみんなで行なった。手配りでは、和白・奈多・美和台・高見台・香住丘・御島崎・香椎の家庭に配布した。

7. 和白干潟を守る会ホームページ　http://www.bekkoame.ne.jp/~miyakodori/

会の活動や和白干潟の生物などに関する情報を発信している。

8. その他の広報活動

（1）情報の発信

新聞や雑誌、他団体の会報等に会の活動予定や鳥情報を発信した。雑誌等に和白干潟を紹介する文章を寄稿した。東区役所と東市民センターに「クリーン作戦と自然観察」のお知らせを毎月掲示していてもらった。

（2）講演等

東箱崎公民館（２月）、千鳥橋病院（４月）、香椎保育所（５月）、みんなの寺子屋小さな講演会（５月）、日本鳥類標識協会（１１月）などの依頼により和白干潟の自然やその保護活動についての講演を行なった。

（3）取材協力

新聞社、テレビ局、ラジオ局、雑誌などからの取材に協力した。

9. 環境元年宣言＋10市民協議会

２００１年７月に山本廣子代表が福岡市の「環境元年宣言＋１０市民協議会」の委員に委嘱され、幹事にも選任された。同協議会は、学識経験者・事業者・市民団体・行政の委員４

１名によって構成され、１年間をかけてこれまでの福岡市における環境保全活動の検証と今後の行動計画策定を行なうことになっていた。しかし、協議会の運営に問題があったため、他の２団体代表とともに５月に辞任した。その後、福岡市に市民参加や情報公開に関する要望を行なった。

10. 和白干潟保全提案の検討

２００１年１２月から毎月、定例会議後、クリーン作戦までの時間を利用して和白干潟保全ミーティングを行ない、和白干潟保全提案について検討した。その中で、５月から８月まで計４回は外部から講師を招いて、和白干潟保全のための人工島学習会を行なった。１２月までにほぼ案がまとまり、２００３年１月２８日に福岡市長に提案書を提出するとともに記者会見を行なった。

◎人工島学習会講師

第１回（５月２５日）　原田祥一氏　　第２回（６月２２日）　荒木龍昇氏
第３回（７月２７日）　堀良一氏　　第４回（８月２４日）　今村恵美子氏

11. 人工島ストップ署名

６月より人工島ストップ署名実行委員会（５団体で構成）の呼びかけ団体となり、署名活動を実施（２００３年２月末日まで)。天神や香椎での街頭署名活動に参加した。９月にはシンポジウム「人工島にレッドカードを！」を実施した。

12. 福岡市長選挙候補者アンケートの実施

１１月１７日投票の福岡市長選挙に向けて、立候補予定の５名に和白干潟保全と人工島に関するアンケートを行なった。各候補者の回答は守る会ホームページに掲載した。

13. 他団体との交流

（１）韓国忠清南道西部地域の沿岸生態系保全活動と日中韓の情報交換拠点構築活動への協力

２００１年１月から公州環境研究センター（韓国）の安承源氏を中心とする上記活動に協力している。２００２年２月と１２月に１回ずつ、各回会員３名が訪韓し、中国・韓国の人々と交流した。

（２）野鳥の会埼玉県支部と交流（２月）

14. 対外協力・参加活動、働きかけ

（１）和白海岸定例探鳥会（野鳥の会福岡支部）に協力・参加。毎月第２日曜日、計１２回。

（２）小中学校の授業に協力した。

９月、和白ヶ丘中学校のオープンスクールで「和白干潟のゴミ」について講演。

１０月、筑陽学園中学校３年生の郊外理科学習（和白干潟調査）に協力。

（３）国設和白干潟鳥獣保護区の地元説明会に参加（８月)。

（４）日韓合同授業研究会に協力（８月)。

（５）他団体のイベントに参加した。

（６）意見書送付・アンケート回答

他団体や行政などの依頼により、環境問題や環境教育についての意見書を作成したりアンケートに答えたりした。

（７）和白干潟のアオサの件で港湾局に連絡し、アオサを回収してもらった。

＊　　＊　　＊

15. 定例会議・総会（毎月第4土曜日）

毎月原則として第４土曜日、守る会事務所で「定例会議」を１２回開催。そのうち２月分は「総会」として開催した。出席者は各回１０～１６名。総会で活動方針を決めるほか、会の活動に関する重要な事項は定例会議で審議して決定した。

そのほかに、会の運営について審議するため、事務局員による「運営会議」を２回開催（８月と１０月）。

16. 研修会・講習会

前出の自然観察指導員講習会や人工島学習会のほか、次の研修会・講習会を行なった。

（１）４月に、学習会「ラムサール条約の提案する湿地再生・復元の原則」を開催。アドバイザーは山本勝氏。１３名参加。

（２）県民ボランティア総合センターのコンサルタント派遣事業で、守る会会計と名簿管理の指導を受けた（１０月、１２月）。

（３）１１月にワード・エクセル講習会を開催した。参加者６名。

17. 販売・贈呈

観察会に来た学校・公民館等に和白干潟の写真集を贈呈した。また、きりえはがき、絵本『コメツキガニのたび』、博多湾市民の会の出版物なども委託販売したり、贈呈したりした。

18. 助成

（１）WWF ジャパン自然保護助成

２００２年４月から２００３年３月まで（１年間）、和白干潟の自然保護活動の推進のために６０万円の助成を受けている。

（２）イオン環境財団助成金

２００２年１１月から２００３年１０月まで（１年間）、和白干潟の保全と環境教育活動のために５０万円の助成を受けている。

19. 寄付・寄贈

（１）富士ゼロックス（株）端数倶楽部および富士ゼロックス（株）より、昨年に引き続き、１０万円ずつ（合計２０万円）の寄付を頂いた。

（２）和白干潟まつりおよび望年会においてオークションのために会員の方々より多数の品物の寄贈を受け、その収益を寄付していただいた。